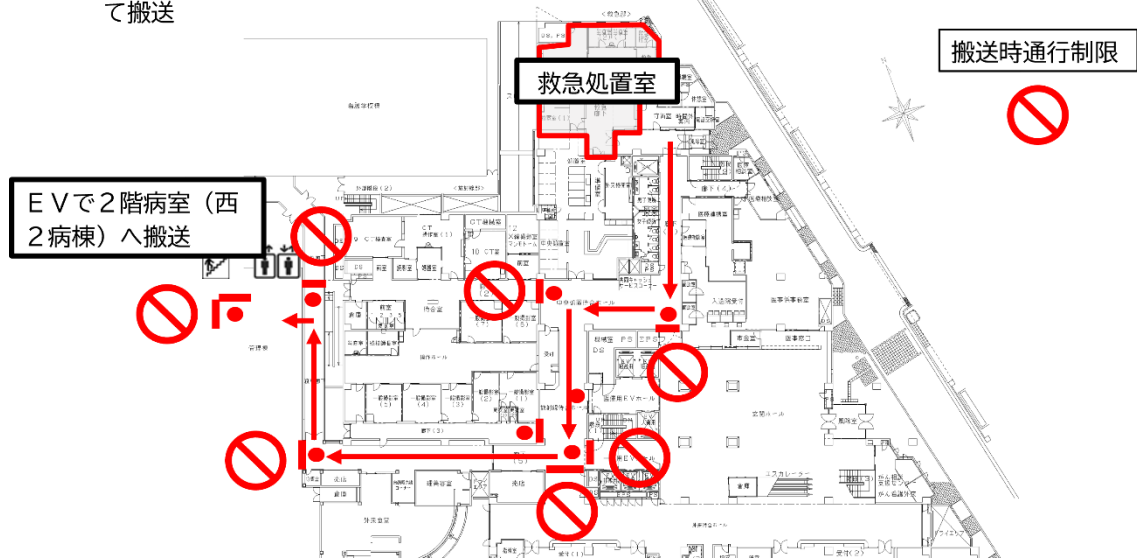


- 新型コロナウイルス感染者の対応（救急処置室（本館）から西2病棟（管理棟・感染症病棟）へ搬送）
 - ・ 救急車で搬送された感染者を救急処置室で受入
 - ・ 感染者を救急処置室から西2病棟へ搬送する際は、エレベーターの専用運転や廊下の通行を制限して搬送

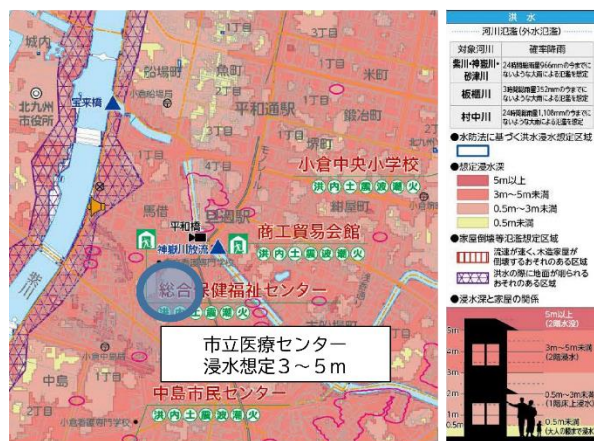


図表 52：災害対応

- 想定浸水域・非常用電源装置等の配置状況

当院では、非常用発電装置等の設備、機械室、ボイラー室、防災管理室等の設備がいずれも地下1階に配置されているため、（現状の対策として、止水板・排水ポンプ等を設置しているが）大規模な河川氾濫等の際は電源喪失のリスクがある。（これらの設備の移設は建替以外では不可能）

北九州市防災ハザードマップ(R6.2.1公開)から抜粋



止水板の設置



非常用発電装置

市立医療センター本館 地下1階 平面図



ボイラー室

○ 地震について

- ・ 本市に大きな被害を与えそうな活断層は、小倉東断層及び福智山断層があり、福岡県「地震に関する防災アセスメント調査報告書（平成24年3月）」では、小倉東断層でM6.9、福智山断層でM7.0の地震が発生した場合、市内では震度6弱（一部6強）の揺れが想定されている。
- ・ 医療センターの各施設は、建築基準法上の新耐震基準をクリアしている。
- ・ 一方で、免震構造ではないため、医療機器などへの影響は否定できない。

■ 耐震基準への対応について

建物区分	階層	建築年	構造	耐震基準
本館	9階	1991.3	鉄骨鉄筋コンクリート造	新耐震
別館	6階	2002.3	鉄筋コンクリート造	新耐震
管理棟	5階	1968.10	鉄筋コンクリート造	旧耐震 (耐震性確認済)
食堂棟	1階	1992.3	鉄骨造	新耐震
看護専門学校棟	4階	1974.10	鉄筋コンクリート造	旧耐震 (耐震補強済)
看護師宿舍棟	4階	1964.4	鉄筋コンクリート造	旧耐震 (耐震補強済)
立体駐車場	3階	1992.8	鉄骨造	新耐震



看護師宿舍棟耐震補強工事

図表 53：施設・設備面からみた新病院の方向性

■ 県内トップクラスのがん診療のさらなる充実

- ・ がん診療部門の集約（がんセンター部門の同一フロアへの設置）
- ・ 手術室の増設、高度化・大型化する医療機器に対応した手術室スペースの拡充
- ・ 外来化学療法センターの治療スペースや緩和ケア外来の診察室の拡充

■ 安全・安心で質の高い政策医療の提供

- ・ ハイリスク患者の受入に対応する機能を維持しつつ、個室の増室・トイレ・シャワー設備の設置など療養環境の改善と、NICU・GCU・MFICUの格納スペースの拡充・設備の更新
- ・ 感染症医療への対応を強化するため、患者の安全・安心を確保した陰圧個室の設置、患者動線の分離

■ 急性期の地域医療を担いつつ、将来的な医療需要の変化に対応

- ・ 救急処置室の拡充や中央処置室、臨床検査スペースの拡充
- ・ 患者支援センター機能の集約、プライバシーに配慮した相談スペースの拡充
- ・ 将来的な医療需要の変化に対応できるフレキシブルな構造

■ 有事の際にも質の高い医療を提供できる機能を維持する

- ・ 災害拠点病院の機能を発揮するためのトリアージスペースの確保、本部機能設置場所の確保
- ・ 災害に対応可能な電源の確保や給排水、空調設備等の配置
- ・ 医療提供機能を維持するための免震構造の採用